

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 4年 10月 28日(金)

その1 通算 272号

◇ 本校の大銀杏おおいちよう（右側） + α

最近の朝晩の急激な冷え込みのせいだろう。2本の大銀杏おおいちようの葉が、日を追って黄味を増していく。併せて、銀杏の奥のアメリカフウと玄関前のドウダンツツジは、紅へのグラデーションを強くする。緑・黄緑・黄・紅の4色。互いを引き立たせる色彩のコントラストが、見る者の心を穏やかにする。

10月上旬



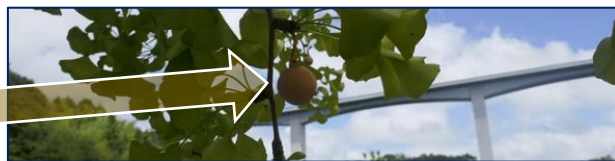
部分拡大



10月下旬



さて、本校の大銀杏おおいちようの発見：第2弾。遠目には分からないが、大きな違いがあることが分かった。「銀杏ぎんなん」の有無である。



左側の銀杏いちようが鈴生りの「銀杏ぎんなん」を備えているのに対し、右側の銀杏いちようはいくら探しても「銀杏ぎんなん」の姿が見当たらない。何度も確認したが、「一つもない」のである。

結論は、「銀杏いちようは【雌雄異株】であり、銀杏ぎんなんが生るのは雌めすの木のみ」とのこと。つまり本校の大銀杏おおいちようは、左側が【雌木めす】で、右側が【雄木おす】ということになる。

めす
雌木

おす
雄木



枝の伸び方による雌雄の見分け法

- ・ 上に上にと伸びているのが雄木。
- ・ 横に大きく広がって伸びるのが雌木。

よく見ると、何となく分かる気がする。

しかし、どうだろう。雄木と雌木が並んでいないと、選別は困難を極めそうだ。

ところで、街路樹の銀杏は「すべて雄木」だとのこと。つまり、銀杏特有の香りを発生させないように「雄木」のみを選んで街路樹として定植し、街づくりを行っている訳だ。



そういえば、街中で銀杏を見かけることは皆無だし、独特な香りを感じることなく過ごしている。銀杏の記憶をたどれば、学校や幼い時代の公園ぐらいなものだ。

こうした対応をするために、確実な銀杏の雌雄選別法があるのかと調べてみた。

最も確実な方法は、「銀杏が生るか、生らないか」。けれども、促成栽培でもしなければ、銀杏が生るまでに25年ほかかり、これではもはや幼木とはいえない。幼木時期の雌雄判別は、専門家でなければ難しいらしい。

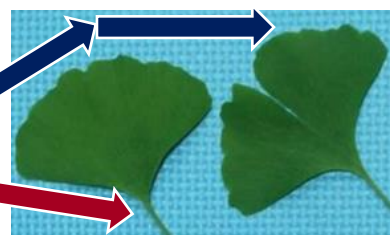
よって、確定した「雄木」を【挿し木】や【接ぎ木】により人工的に繁殖させ、ある程度生長した「雄木」の苗を街路樹として定植するのだそうだ。なるほど!!!

<おまけ>

情報によれば、「葉の形状」で雌雄の見分け方があるとのこと。

葉の形による雌雄の見分け法

- ・ 葉の中央にキョロツミたく切れ込みがあるのが雄木
- ・ 切れ込みがなく、スカートが広がった形の葉が雌木



ということで、早速、本校の銀杏で確認してみた。その結果が下の2枚の写真。



結果は…あらら。ほとんど同じ。

銀杏の雌雄判別は、本当に難しいのだ。